

AnyWire[®] DBシリーズ

ユーザーズマニュアル

GSTool
Windows版

V7. 4. 7対応
2022年4月

注意事項

本書に対する注意

1. 本ソフトウェアの操作は、本書をよく読んで内容を理解した後に行ってください。
2. 本書は、本ソフトウェアに含まれる機能詳細を説明するものであり、お客様の特定目的に適合することを保証するものではありません。
3. 本書の一部または全部を無断で転載、複製することはお断りします。
4. 本書の内容については将来予告なしに変更する場合があります。

警告表示について



「警告」とは取扱いを誤った場合に死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



「注意」とは取扱いを誤った場合に障害を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

安全にご使用いただくために



- ◆ AnyWire DBシリーズは安全確保を目的とした制御機能を有するものではありません。
- ◆ 次のような場合には、定格、機能に対して余裕を持った使い方やフェールセーフなどの安全対策について特別のご配慮をしていただくとともに、弊社までご相談くださいますようお願いいたします。
 - (1) 高い安全性が必要とされる用途
 - ・人命や財産に対して大きな影響を与えることが予測される用途
 - ・医療用機器、安全用機器など
 - (2) より高い信頼性が要求されるシステムに使用される場合
 - ・車両制御、燃焼制御機器などへの使用
- ◆ 設置や交換作業の前には必ずシステムの電源を切ってください。
- ◆ AnyWire DBシリーズはこのマニュアルに定められた仕様や条件の範囲内で使用してください。

目次

1	GSToolとは	5
1.1.	GSToolとは	5
2	GSToolでできること	5
2.1.	エニワイターミナルのデータモニター	5
2.1.1.	拡張512Wのモニター(10進/16進数/係数変換表示、変換テーブルの読み込み)	5
2.2.	任意のModbusアドレスのモニター/書き込み	7
2.3.	ターミナルアドレスとModbusアドレスの変換	8
2.4.	モニターデータのCSVファイルへのログ	9
2.4.1.	ログ設定	9
2.5.	ゲートサーバーの時計設定	9
2.6.	FTP機能	10
2.7.	電流・電力ターミナル設定	11
2.8.	任意アドレス書き込み	13
2.9.	カウンターターミナル設定・プリセット	14
2.10.	ソフトカウンタリセット	14
2.11.	ゲートサーバ情報	15
3	起動	16
3.1.	複数起動	16
3.2.	Iniファイル、終了	16
4	接続/切断	17
4.1.	IPアドレスの指定	17
4.2.	切断	18
5	モニター開始	19
5.1.	ワードバスモニター	19
5.2.	ビットバスモニター	20
5.3.	拡張512Wモニター	20
5.4.	工学単位変換後モニター	20
5.5.	積算エリアモニター	21
5.6.	一定時間積算モニター	21
5.7.	モニター形式	22
5.7.1.	16ビット符号なし	22
5.7.2.	32ビット符号なし	22
5.7.3.	32ビット単精度実数	22

5.7.4.	24ビット符号なし整数	23
5.7.5.	オン/オフ	23
5.7.6.	32ビットデータSWAP	24
6	モニター停止	26
7	ログ	27
7.1.	ログ設定	27
8	バージョン情報	28
9	終了	29
10	INIファイル	30

1 GSToolとは

1.1. GSToolとは

エニワイヤ製ゲートサーバー(GS)とModbus/TCPで接続し、エニワイヤI/Oをモニターしたり操作したりできる、Windows上で動作するソフトウェアです。(旧名称：EthGWTool)

※本ソフトウェアはフリーソフトウェアです。本ソフトウェアを使用することにより生じた損害等については保証いたしませんのであらかじめご了承ください。

2 GSToolでできること

2.1. エニワイヤターミナルのデータモニター

2.1.1. 拡張512Wのモニター(10進/16進数/係数変換表示、変換テーブルの読み込み)

データ領域を「拡張512W入力データ」に指定すると、エニワイヤのターミナルアドレス4ワード分のデータを監視できます。

黒バックの白文字エリアには、エニワイヤ通信により送信されてくる入力データ生値が表示されます。

The screenshot shows the GS Tool application window. The interface includes a menu bar (File, View, Settings, Tools, Help), a toolbar, and a main display area. The 'Anywire' tab is selected, showing 'Anywireターミナルタイプ/アドレス' and 'Modbus/TCP' settings. The 'Modbus/TCP' section is highlighted with a red dashed box, showing 'Modbusアドレス' set to 30321, 'モニターサイズ' set to 32, and 'データ領域指定' set to '拡張512W入力データ'. The 'GSタイプ' section on the right shows 'GS1.x' selected. The main display area shows a table of data values for 'WORD 0' through 'WORD 3', with columns for 'CH0' through 'CH7'. The data values are displayed in a black background with white text. Red arrows point from text boxes to specific parts of the interface: 'ターミナルアドレスと種別の指定' points to the 'Anywireターミナルタイプ/アドレス' section; 'データ生値' points to the data values in the table; 'GSタイプ指定' points to the 'GSタイプ' section; 'Modbusアドレスの指定' points to the 'Modbusアドレス' field; 'データ領域指定' points to the 'データ領域指定' dropdown; and '各チャンネルのデータ 4×8ワード分' points to the table of data values.

ターミナルアドレスと種別の指定

データ生値

GSタイプ指定

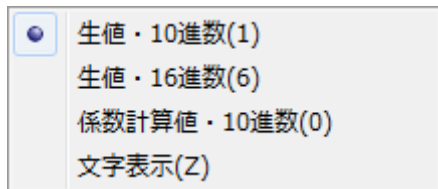
Modbusアドレスの指定

データ領域指定

各チャンネルのデータ 4×8ワード分

モニターの入力値表示欄を右クリックすると、以下のようなメニューが表示されます。

任意の表示形式に変更することが可能です。



16ビットを上位と下位に分け、ASCIIコードとして変換し、表示します。

生値・10進数

WORD 0	30033	16617
CH0		0 °C
CH1		0 °C
CH2		23.3 °C
CH3		25.3 °C
CH4		0 °C
CH5		0 °C
CH6		0 °C
CH7		0 °C

生値・16進数

WORD 0	30033	40EA
CH0		0000 °C
CH1		0000 °C
CH2		00EA °C
CH3		00FE °C
CH4		0000 °C
CH5		0000 °C
CH6		0000 °C
CH7		0000 °C

係数計算値・10進数

WORD 0	30033	0000
CH0		0 °C
CH1		0 °C
CH2		23.4 °C
CH3		25.3 °C
CH4		0 °C
CH5		0 °C
CH6		0 °C
CH7		0 °C

文字表示

WORD 0	30033	NUL・NUL
CH0		NUL・NUL
CH1		NUL・NUL
CH2		NUL・D
CH3		SOH・W
CH4		NUL・NUL
CH5		NUL・NUL
CH6		NUL・NUL
CH7		NUL・NUL

ターミナルタイプを選択することにより、データ領域に、データの種類、データ位置や単位などが表示されます。

Anywireターミナルタイプ / アドレス

DB/D27ポート | DB16ポート | D216ポート

ワードアドレス | Modbusワード

0 | 30033

99 : その他

↑ターミナルタイプ

- 0 : 熱電対ターミナル
- 1 : カウンタターミナル(13bit)
- 2 : カウンタターミナル(24bit)
- 3 : 電力 7 回路ターミナル
- 4 : 電力14回路ターミナル
- 5 : 電力 7 回路高機能ターミナル
- 6 : 電流8回路ターミナル
- 7 : 電流16回路ターミナル
- 8 : 電流32回路ターミナル
- 9 : コンセントバーPDU
- 10 : サーミスタ温度
- 11 : 温湿度ターミナル
- 99 : その他

変換テーブルの読み込み

「係数計算値・10進数」の係数は通常0.1に設定されていますが、「変換テーブル読込」機能を使用して任意の係数を設定することが可能です。



設定ファイル (*.cfg) の形式は以下の通りです。512チャンネル分の設定が可能です。

チャンネル番号, 係数1, 係数2

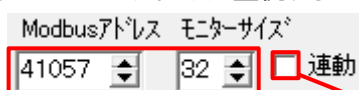
項目	設定内容
チャンネル番号	1～512
係数1	演算係数 $ax + b$ の a になります。
係数2	演算係数 $ax + b$ の b になります。

設定例

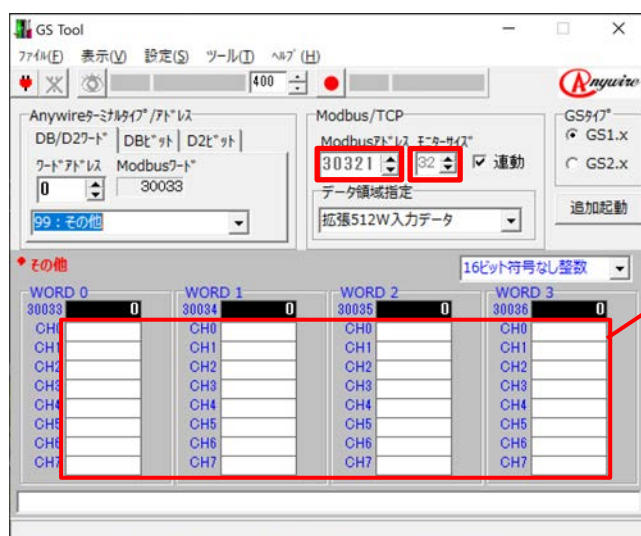
1, 0.1, 0
 2, 0.1, 0
 ...
 512, 0.1, 0

2.2. 任意のModbusアドレスのモニター/書き込み

Modbusアドレス指定欄の右側にある「連動」のチェックを外すと、Modbusアドレスやモニターサイズの指定が可能となり、任意のModbusアドレスを監視することができます。



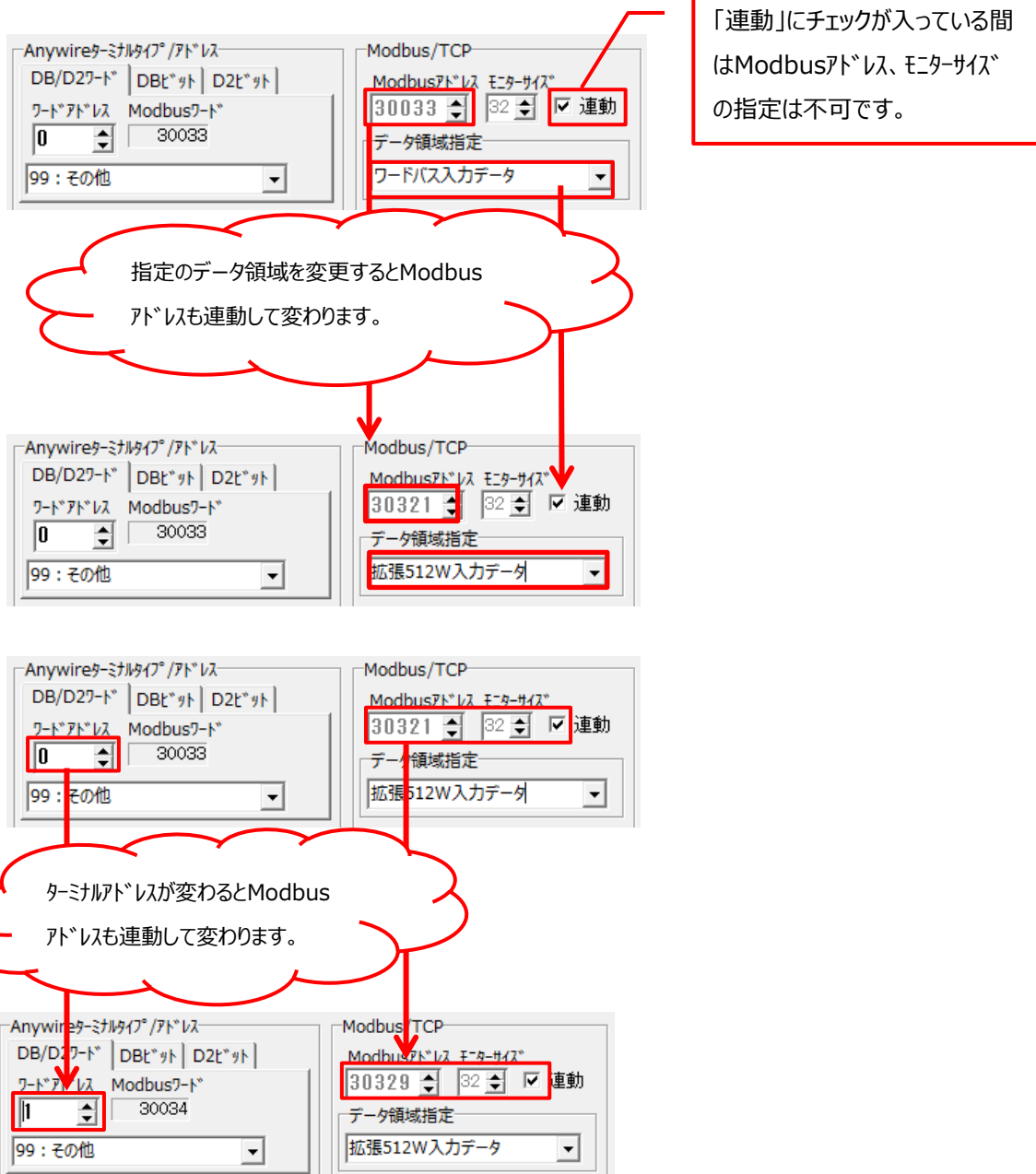
「連動」のチェックを外すと、Modbusアドレス、モニターサイズの変更が可能になります。



指定した「41057」から、「32」チャンネル分の値が表示されます。

2.3. ターミナルアドレスとModbusアドレスの変換

エニワイヤのターミナルアドレスとModbusアドレスを連動しておく、と、ターミナルアドレスを設定するごとに自動的にModbusアドレスを切り替えることができます。



2.4. モニターデータのCSVファイルへのログ

本ツールのモニターデータを、ログとしてCSVファイルに保存できます。

詳しくは本書の7章「ログ」をご確認ください。

2.4.1. ログ設定

ログ設定を行うと、メニューの「設定」―「ログ詳細設定」から設定したファイル名でCSVファイルを保存できます。

自動ログ保存機能を使用すれば、設定した間隔で自動的にファイルを保存することも可能です。

詳しくは本書の7章「ログ」をご確認ください。

2.5. ゲートサーバーの時計設定

本ツールでは、ゲートサーバー内の時計の時刻を読み出したり、設定したりすることが可能です。

「設定」―「時計設定」をクリックすると、以下の設定ウィンドウが表示されます。

The screenshot shows the 'Gate Server Settings' window with the 'Clock' tab selected. The window contains the following elements:

- Modbus/TCP接続 | FTP接続 | LOG形式 | 時計** (Tabs)
- ゲートサーバーの日付時刻** (Gate Server Date/Time): A text box displaying '2022/04/13 (水) 08:54:03'.
- 自動読み出し** (Auto Load): A checked checkbox.
- 読み出し** (Load): A button.
- 設定** (Set): A button.
- PC時計/設定日付時間** (PC Clock/Setting Date/Time): A section with date and time pickers.
- PCと同期** (Sync with PC): A checked checkbox.
- OK** (Button): At the bottom right.

Annotations (red boxes and arrows) provide additional instructions:

- An arrow points from the '読み出し' button to the date/time display, with a text box stating: 「読み出し」ボタンを押すとこの部分にゲートサーバーに設定されている現在の時刻が表示されます。常にGS時刻を表示したい場合は、「自動読み出し」にチェックを入れます。
- An arrow points from the 'PCと同期' checkbox to a text box stating: 「PCと同期」にチェックを入れると、現在のPC時刻がリアルタイムで表示されます。PC時計と時刻を合わせたい場合はチェックを付け、任意の日付・時刻を設定したいときはチェックを外して、「設定」ボタンをクリックします。

2. 6. FTP機能

本ツールを利用して、ゲートサーバー内のファイルをダウンロード／アップロードすることができます。

「ツール」―「FTPクライアント」からFTPツールウィンドウを呼び出し、FTP接続を開始すると、ダウンロード・編集・アップロードを行うことができます。

※PCのファイアーウォール設定により、ダウンロードが出来ない場合があります

ツール(T) ヘルプ(H)

- FTPクライアント(F)
- 電力・電流ターミナル設定(P)
- 任意書き込み(W)
- カウンタ・ミナルリセット(C)
- リフトリセット(S)

接続を開始するとテキストエリアに「接続」と表示されます。

FTP接続の設定をするにはここをクリックします。
「設定」メニューの「FTP設定」から設定することもできます。

設定ファイルを選択し、「Download」をクリックすると、下のテキストエリアにファイル内容が表示されます。

ゲートサーバー設定

Modbus/TCP接続 FTP接続 LOG形式 時計

HOSTアドレス 192.168.1.38

ポート番号 21

USER ID root

PASSWORD ****

OK

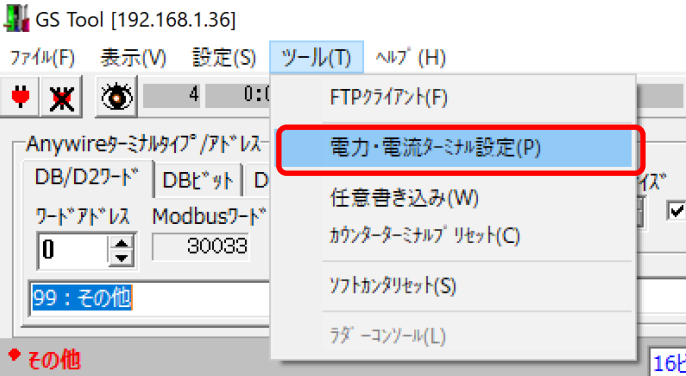
ダウンロードしたファイル内容を編集し、「Upload」ボタンをクリックすると、ファイル内容がアップロードされます。

設定ファイルもダウンロード／アップロードできます。
空欄にファイル名を入力してください。

その他のファイル一覧:

- mpxcfg.cfg
- ntp.cfg
- ftpcfg.cfg
- internet.cfg
- ip_accs.cfg
- onoffln.cfg
- rsdrv.cfg
- rstc.cfg

2.7. 電流・電力ターミナル設定



電力・電流ターミナル設定

電力14回路 | 電流16・32回路 | コンセント
電力7・28回路 | 電流8回路

設定項目
アドレス 0
周波数 2: 60Hz
電圧レンジ 2: 200V
タイプ 1: 三相3線式電力7回路(4W)

読み出し

電流レンジ

	電圧レンジ	電流レンジ
I1	3: 120A	3
I2	3: 120A	3
I3	3: 120A	3
I4	3: 120A	3
I5	3: 120A	3
I6	3: 120A	3
I7	3: 120A	3

電流CH

- ☒ 7回路 1~7
- ☐ 28回路 1~ 7
- ☐ 28回路 8~14
- ☐ 28回路15~21
- ☐ 28回路22~28

書き込み

キャンセル

40 10 0 100 0

右クリックメニュー

- 製品タイプの書き換えを許可(W)
- タイムアウト値を変更(X)
- 書き込み間隔を変更(Y)
- 設定読み込み待ち時間を変更(Z)

アドレスを指定、電流CHを指定し、読み出しボタンをクリックすると現在の設定モードが確認できます。

プルダウンメニューから設定モードを変更した後に書き込みボタンをクリックすると、変更した内容が反映されます。

電力14回路、電流8回路、電流16・32回路、コンセントバーも上記と同様に設定します。

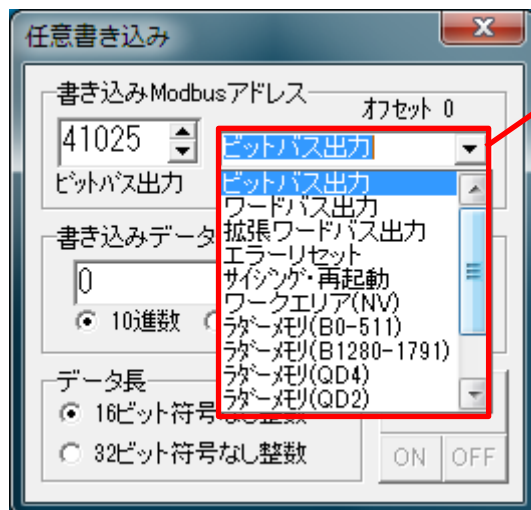
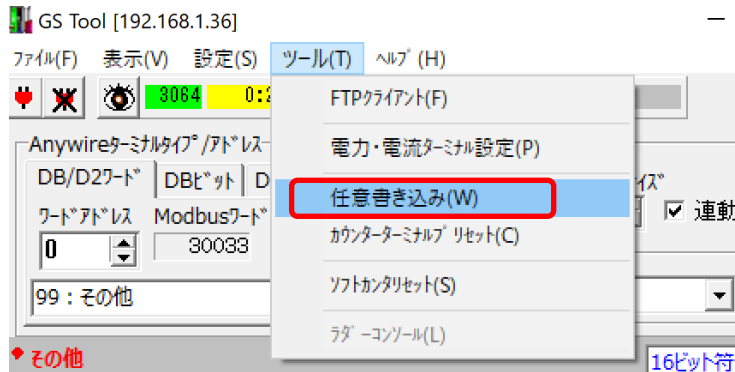


注意

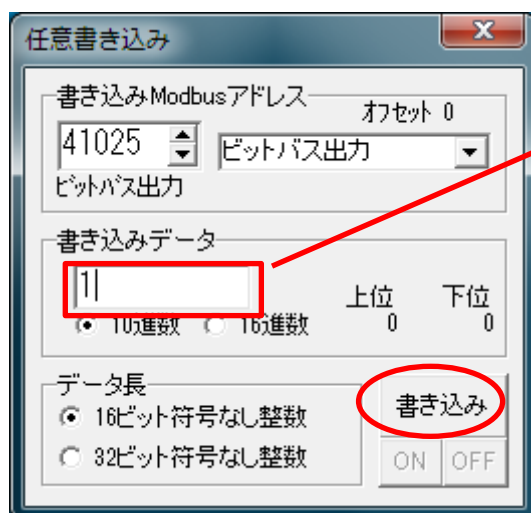
ターミナル動作中に設定読み出しや設定書き込みを行うと、ターミナルが測定モードから設定モードに切り換えられ、運転が停止することがあります。
計測中は、本機能を使用しないようご注意ください。

2.8. 任意アドレス書き込み

「ツール」―「任意書き込み」メニューより、任意のアドレスに出力値を書き込むことができます。



プルダウンメニューから任意の領域を選択すると、左側のアドレスが指定した領域に連動して変化します。



10進数もしくは16進数で書き込むデータを入力します。

2.9. カウンターターミナル設定・プリセット

「ツール」―「カウンターターミナルプリセット」より、メーターに合わせた回転桁を4桁～7桁の間で指定することが出来ます。4桁に指定すると、9999の次のパルスで0に戻ります。

現在のカウンタ値をメーターと合わせたいときなどは、カウンターターミナルのカウンタ値をプリセットすることが出来ます。

桁指定を行わない場合、24bitモードではカウンターターミナルは24bitのカウンタとなり、最大値は16,777,216です。さらに1パルス入力すると、0に戻ります。

機器本体のロータリースイッチとモードを合わせます。

カウンターターミナル プリセット

IN OUT ☒ 連動

アドレス 0 0

プリセット 桁指定

モード

- ☐ 8 : 24bit 16W
- ☐ 9 : 24bit 8W
- ☐ A : 24bit 4W
- ☒ B : 24bit 2W
- ☐ C : 16bit 1W
- ☐ D : 13bit 1W
- ☐ E : CRC 2W

現在値読み込み

カウンタ値リセット

A*2SW-J*PL□ MODE"8"~"D"で使用
A*2SW-J*PL□/R MODE"8"~"E"で使用

変更が必要なチャンネルにチェックして、プリセット値を入力し、【プリセット】ボタンを押すとカウンタ値が書き換わります。同様に、桁数を指定して【桁指定】ボタンを押すと、回転桁が設定されます。

2.10. ソフトカウンタリセット

ソフトカウンタのカウンタを0にリセットする機能です。

「ツール」―「ソフトカウンタリセット」から指定したアドレスのチャンネル別に、もしくは一括でカウンタをリセットすることができます。

Word入力

Bit入力

連動

連動

2. 11. ゲートサーバ情報

ゲートサーバと接続した状態において、ゲートサーバの情報を表示します。

GS Tool [192.168.1.36]

ファイル(F) 表示(V) 設定(S) ツール(T) ヘルプ(H)

ゲートサーバ情報(M)

Anywi ログ領域表示(L) Mod

モジュール情報

PC-Board

H/W Ver.	0102
F/W Ver.	0803
Linux Mode	User

AnyWire-Board

H/W Ver.	0005
F/W Ver.	1548
FPGA Ver.	A006
ロータリーDIPSW	0002
内部DIPSW	00F3
単一サイクル	OFF
マスタークロック	D4 200m

MAC Address

00-0E-FF-0A-00-F1

更新

アラームリセット

閉じる

断線エラーが発生した場合、断線状態解消後にアラームリセットを行うことができます。

MACアドレスのフォーマットはGS1系統とGS2系統で異なります。正しく表示するためにあらかじめ選択しておいて下さい

Anywire

GSタイプ

GS1.x

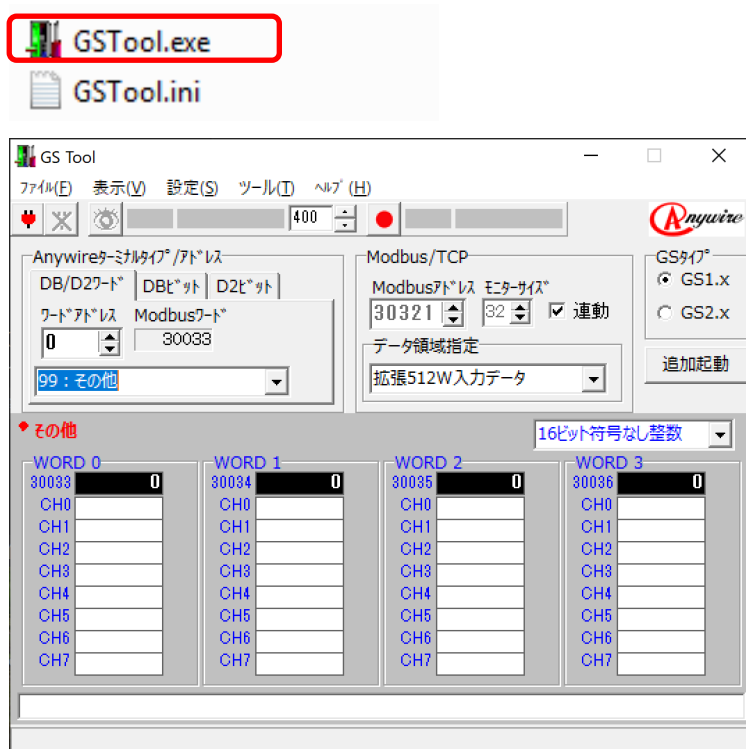
GS2.x

追加起動

断線エラーが発生した場合、断線状態解消後にアラームリセットを行うことができます。

3 起動

「GSTool.exe」ファイルをダブルクリックし、ツールを起動します。



3.1. 複数起動

本ツールは、複数起動させることが可能です。

追加起動ボタンをクリックすることで複数起動できます。

同じホストアドレスには同時に16機まで接続することができます。

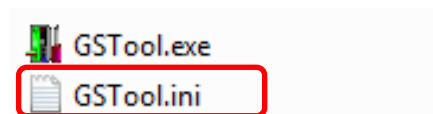
最後に終了したウィンドウの設定が設定ファイルに保存されます。

3.2. Ini ファイル、終了

起動後に編集した設定は、ツールを終了させると設定ファイルに反映されます。


設定ファイルがない場合は、exeファイルの保管先と同じ場所に新しく生成されます。

起動がうまくいかない場合、起動したのにウィンドウが表示されない場合は、タスクバーのアイコンを右クリック、「ウィンドウを閉じる」で終了してから、Iniファイルを削除し、その後ツールを再度起動してください。



4 接続/切断

4.1. IPアドレスの指定

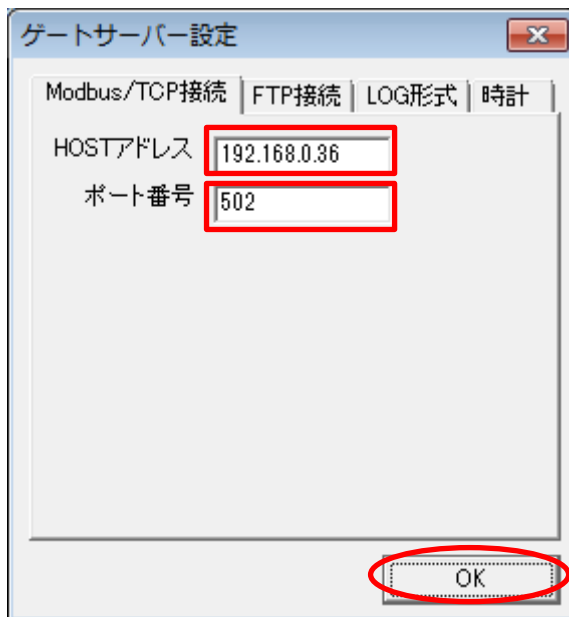
ツールを起動させて、接続マーク  をクリックします。

以下のウィンドウ画面が立ち上がったら、「ホスト」ボタンをクリックします。



以下の画面からホストアドレスとポートアドレスの指定を行うことができます。

インプットボックスをクリックして指定内容を編集したら、「OK」ボタンで反映させます。




先ほどの画面で「接続」ボタンをクリックし、接続が完了してウィンドウが閉じるまで待ちます。

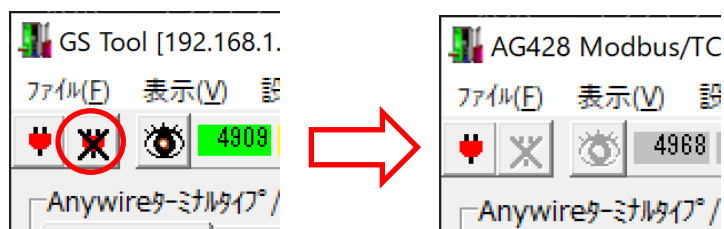


指定情報や接続状況に問題がある場合などは、画面のステータスエリアに「接続エラー」と表示されます。



4.2. 切断

マスタとの接続を切断するときは、「ファイル」→「切断」メニューもしくは  マークをクリックします。

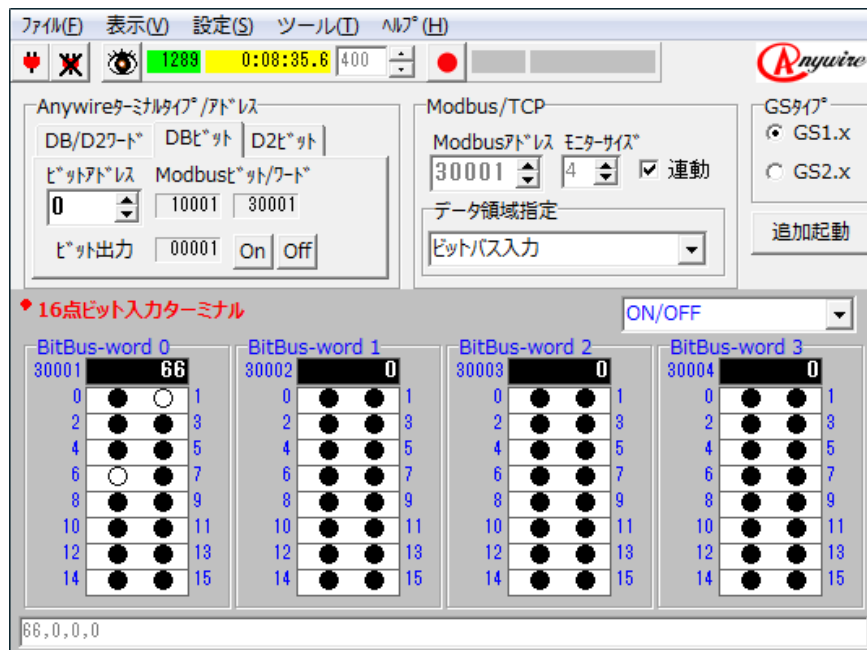


5.2. ビットバスモニター

ビットバス入力データをモニターできます。

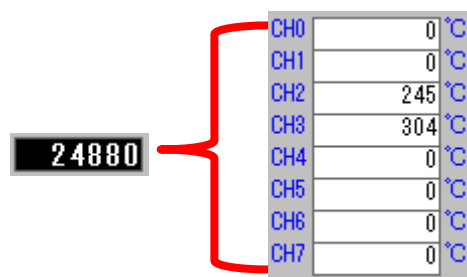
1ワードにつき16ビット分の入力値がモニターできます。

白丸（○）がON、黒丸（●）がOFFを表します。



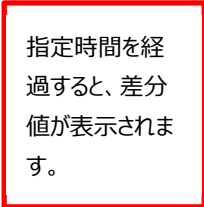
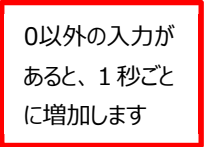
5.3. 拡張512Wモニター

1アドレスを8ch分に展開した形で値を監視できます。



5.4. 工学単位変換後モニター

設定ファイル「trans.cfg」にて別途単位変換の設定をした場合は、ファイル内で指定したアドレス領域の値をモニターできます。



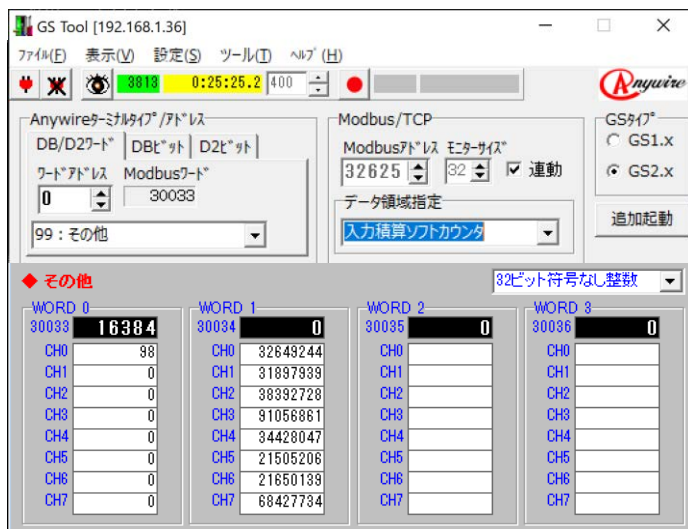
5.7. モニター形式

5.7.1. 16ビット符号なし

通常のモニター形式です。

5.7.2. 32ビット符号なし

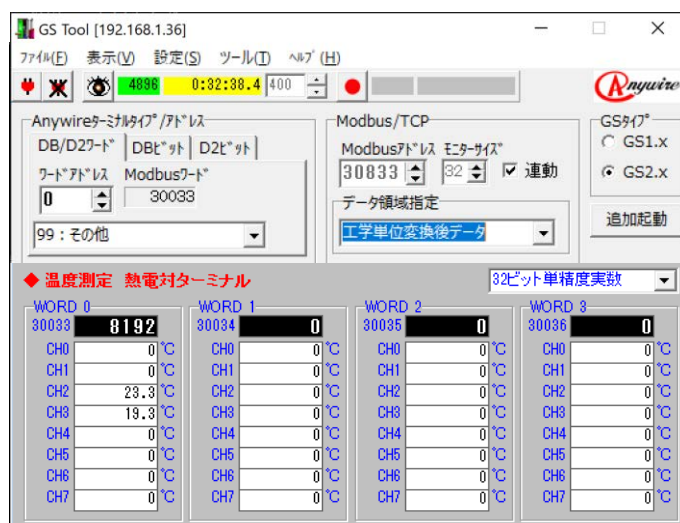
ソフトカウンタのデータを参照するときなどに使用します。



5.7.3. 32ビット単精度実数

工学単位変換後のデータを参照するときなどに使用します。

設定ファイルで指定した内容で、データが加工されて表示されます。



5.7.4. 24ビット符号なし整数

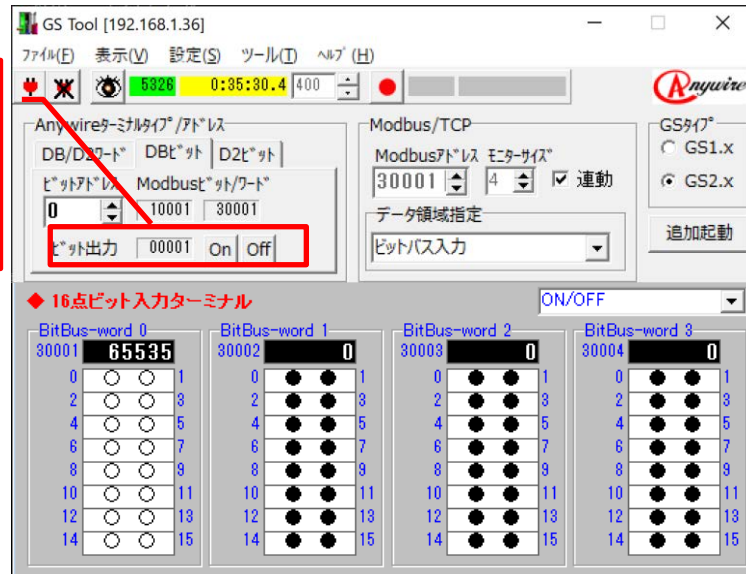
パルス入力ターミナルのカウンタ値をモニターする場合に使用します。

32ビットデータの上位8ビットをマスクします。

5.7.5. オン/オフ

ビットをモニターする場合、ON/OFFの形式で表示されます。

「On」「Off」ボタンで
ビット出力の
ON/OFFを設定す
ることができます。

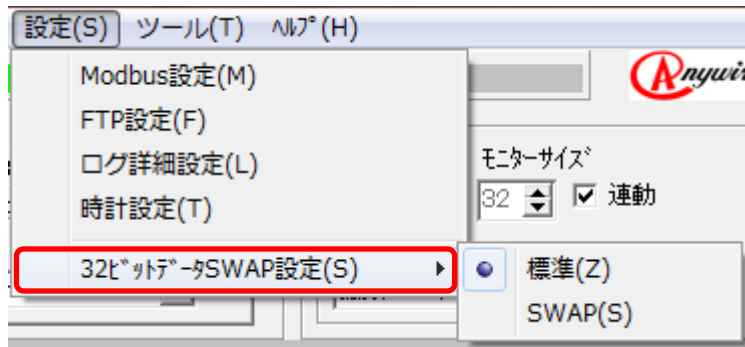


5.7.6. 32ビットデータSWAP

2ワードデータを32ビット(32ビット符号なし整数や単精度浮動小数点数など)データとして扱う場合、2ワードのデータの配置方式を指定できます。

標準ではリトルエンディアン、SWAPではビッグエンディアンの方式を利用しています。

SWAP設定を切り替えるには、「設定」-「32ビットデータSWAP設定」から「標準」もしくは「SWAP」を選択します。



参考 1) 16ビット符号なし(16進表記)

◆ 電流32回路ターミナル

16ビット符号なし整数

WORD 0	WORD 1	WORD 2	WORD 3
30033 2002	30034 400B	30035 4013	30036 401B
I0 0001 A	I8 0009 A	I16 0011 A	I24 0019 A
I1 0002 A	I9 000A A	I17 0012 A	I25 001A A
I2 0003 A	I10 000B A	I18 0013 A	I26 001B A
I3 0004 A	I11 000C A	I19 0014 A	I27 001C A
I4 0005 A	I12 000D A	I20 0015 A	I28 001D A
I5 0006 A	I13 000E A	I21 0016 A	I29 001E A
I6 0007 A	I14 000F A	I22 0017 A	I30 001F A
I7 0008 A	I15 0010 A	I23 0018 A	I31 0020 A

, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30,

参考 2) 32ビット符号なし整数(16進表示) 32ビットデータSWAP設定: 標準

◆ 電流32回路ターミナル

32ビット符号なし整数

WORD 0	WORD 1	WORD 2	WORD 3
30033 4003	30034 400B	30035 4013	30036 401B
I0 00020001 A	I8 00120011 A	I16 0011 A	I24 0019 A
I1 00040003 A	I9 00140013 A	I17 0012 A	I25 001A A
I2 00060005 A	I10 00160015 A	I18 0013 A	I26 001B A
I3 00080007 A	I11 00180017 A	I19 0014 A	I27 001C A
I4 000A0009 A	I12 001A0019 A	I20 0015 A	I28 001D A
I5 000C000B A	I13 001C001B A	I21 0016 A	I29 001E A
I6 000E000D A	I14 001E001D A	I22 0017 A	I30 001F A
I7 0010000F A	I15 0020001F A	I23 0018 A	I31 0020 A

, 131073, 262147, 393221, 524295, 655369, 786443, 917517, 1048591, 1179665, 1310739, 1441813,

参考 3) 32ビット符号なし整数(16進表示) 32ビットデータSWAP設定: SWAP


◆ 電流32回路ターミナル

32ビット符号なし整数

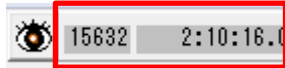
WORD 0	WORD 1	WORD 2	WORD 3
30033 4003	30034 600C	30035 6014	30036 601C
I0 00010002 A	I8 00110012 A	I16 0011 A	I24 0019 A
I1 00030004 A	I9 00130014 A	I17 0012 A	I25 001A A
I2 00050006 A	I10 00150016 A	I18 0013 A	I26 001B A
I3 00070008 A	I11 00170018 A	I19 0014 A	I27 001C A
I4 0009000A A	I12 0019001A A	I20 0015 A	I28 001D A
I5 000E000C A	I13 001B001C A	I21 0016 A	I29 001E A
I6 000D000E A	I14 001D001E A	I22 0017 A	I30 001F A
I7 000F0010 A	I15 001F0020 A	I23 0018 A	I31 0020 A

, 65538, 196612, 327686, 458760, 589834, 720908, 851982, 983056, 1114130, 1245204, 1376278, 15

6 モニター停止

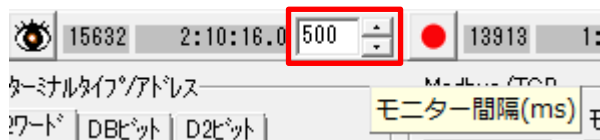
モニターマークを再度クリックすると、モニターを停止します。

モニターが停止すると、モニターマークの隣のバーの背景色が灰色に変わります、カウントも停止します。



モニターが停止している間は、▲/▼ボタンでモニター間隔を編集することも可能です。

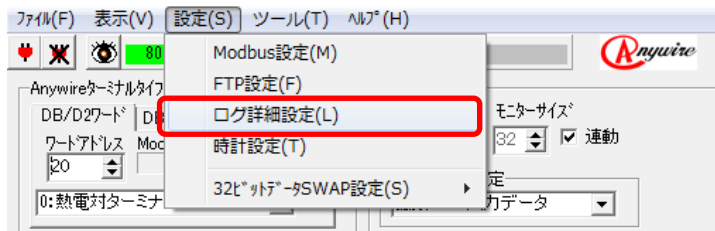
100ms～9900msの間で設定できます。



7 ログ

7.1. ログ設定

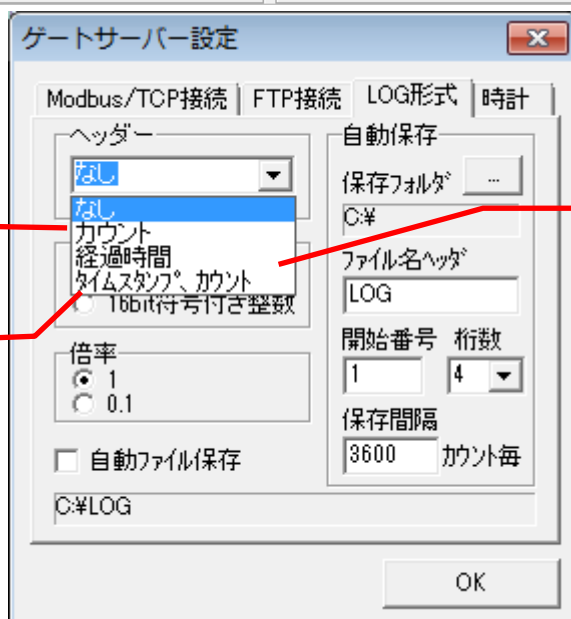
メニューバーの「設定」→「ログ詳細設定」をクリックして、ログ設定画面を開きます。



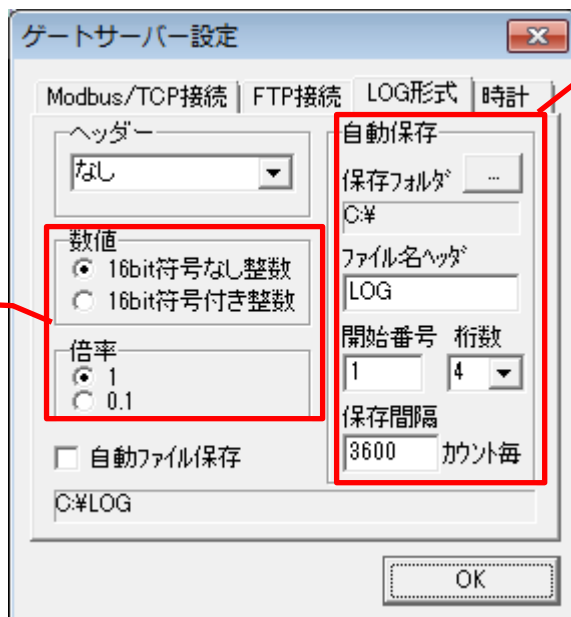
各行のはじめに「0」から始まる数字がカウントアップして付与されます。

各行のはじめに日付を含むタイムスタンプとカウント番号が付与されます。

各行のはじめにログを取り始めてからの経過時間が付与されます。



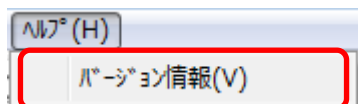
ログファイル内に記録される数値に影響します。



「自動ファイル保存」にチェックを入れると、
①「保存フォルダ」で指定したフォルダ内に「ファイル名ヘッダ」で指定した文字列が先頭についたファイルが作成されます。
②「保存間隔」で設定した間隔ごとに、「開始番号」から、「桁数」で指定された桁で表示された番号がカウントアップされてファイルが作成されます。（1カウントの間隔設定は前項を参照）
③桁数を超えた場合も、カウントアップを続けて新しいファイルが作成されます。

8 バージョン情報


本ツールのバージョン情報は、「ヘルプ」－「バージョン情報」から確認できます。

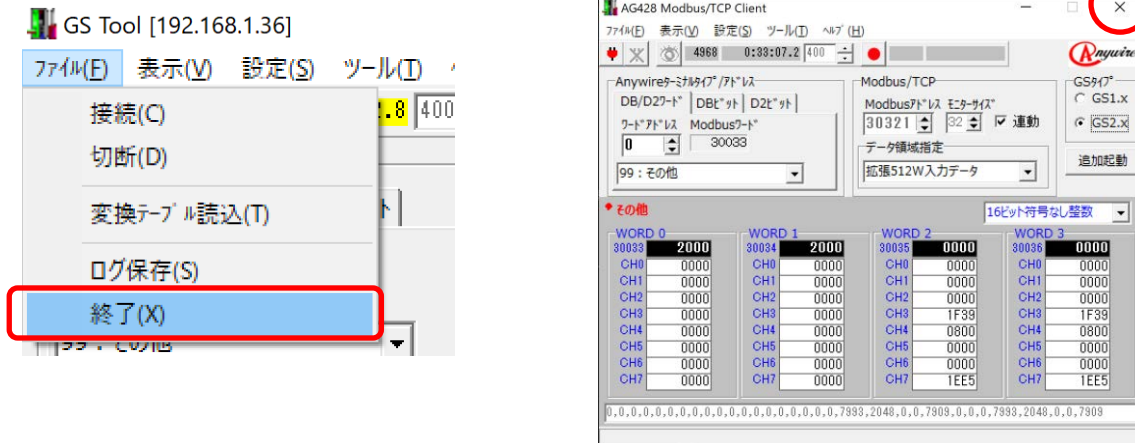


バージョンは、ダイアログ表示されたウィンドウの「GS Tool」の右に表示されます。



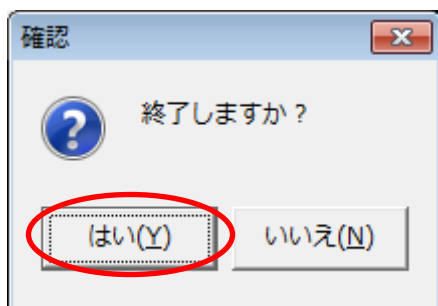
9 終了

ツールを終了するときは、「ファイル」―「終了」メニューもしくはウィンドウの終了マーク（Windows7では  マーク）をクリックします。



以下のダイアログが表示されたら「はい」をクリックし、ツールを終了します。

（メニューから終了する場合、以下のダイアログは表示されません。）



10 INIファイル

ツールを起動するとき、[プログラムファイル名].iniファイルの内容を読み込みます。

ツールを終了するときは、iniファイルに最後の状態が書き込まれます。

Iniファイルは、実行形式のファイルと同じフォルダに、最初の起動時に作成されます。

Iniファイルが削除された場合は、デフォルト値で再度作成されます。

Iniファイルの内容は以下の通りです。

[WINDOW]	[WINDOW]
Top=141	ウインドウの位置
Left=256	
[MODBUS]	[MODBUS]
host=192. 168. 0. 36	ゲートサーバーのIPアドレス
port=502	ポート番号 (502固定)
[FTP]	[FTP]
host=192. 168. 0. 36	ゲートサーバーのIPアドレス
port=21	ポート番号 (21固定)
user=root	FTPのuser名
pass=root	FTPのpass名
[LOG]	[LOG]
header=3	ログヘッダータイプ
datatype=0	データタイプ
ratio=0	変換比
dir=C:¥	ログディレクトリ
[ADDRESS]	[ADDRESS]
w0=2	ワードアドレス
b0=0	ビットアドレス
[TERM]	[TERM]
type=0	ターミナルタイプ
[EPT]	[EPT]
type=1	電流・電カターミナルタイプ
[DATA32]	[DATA32]
swap=1	スワップ設定

注意： PCがマルチウインドウでかつ拡張設定の時、拡張ウインドウ側に本ツールを配置し、終了した場合は拡張ウインドウ側の位置が記憶されます。 その後、起動時に拡張ウインドウが無いと、何処にも表示されなくなることがあります。

その場合には、タスクバーからGSツールアイコンを右クリックし、「ウインドウを閉じる」を実行、GSツールを一旦終了させ、GSTool.iniファイルを削除してから起動し直して下さい。